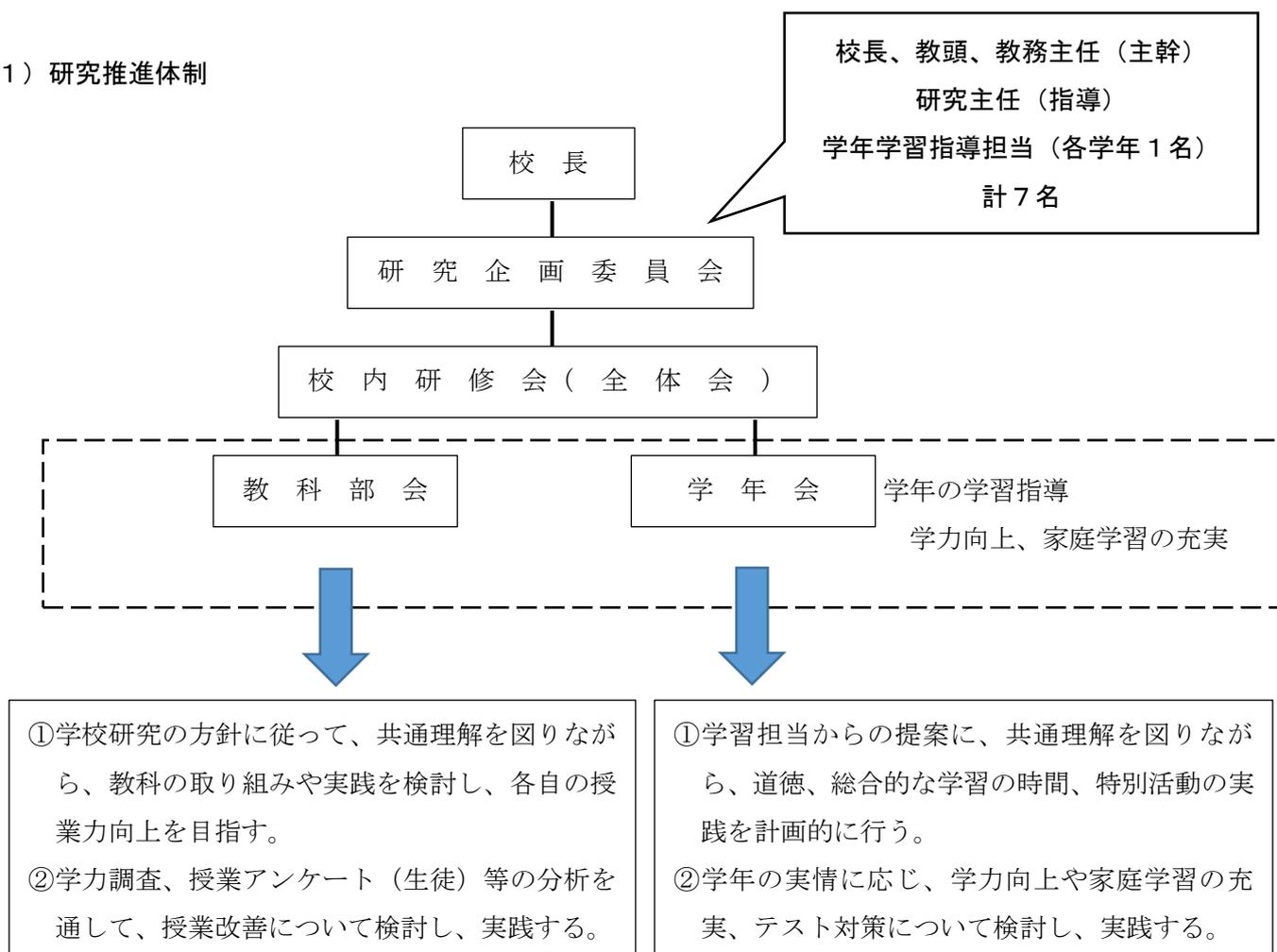


研究の組織と運営

(1) 研究推進体制



(2) 研究の進め方

- ① 研究企画委員会が提案した企画等に基づき、学校研究を教科部会および学年(学校)全体で進める。
- ② 教師も生徒も「学びあい」。教師側は共通実践を通して、同僚性を高める。

研究の概要

(1) 令和6年度 研究主題

考え、高め合い、表現する生徒の育成

(2) 主題設定の理由

本校の生徒は、以前より「学び合い学習」に取り組み、生徒がより主体的に学ぶ授業を通して学力の向上を目指してきた。平成30年度より継続して取り組んできた『つなぐ・広げる・深める』教師の働きかけを土台とし、昨今求められる生徒が主体となる学習活動の充実を図るため、今年度は副題を設定せず、「生徒が自ら考え」、「生徒同士で高め合い」、「生徒自身のやり方で表現する」授業実践を目指す。

(3) 本年度の重点

本校は、平成30年度から『つなぐ・広げる・深める』教師の働きかけ』に取り組んできた(資料1)。ペア活動、グループ活動だけにとどまらず、「前の授業と『つなぐ』」、「以前の自分の考えを『深める』」などの学習活動を行ってきたが、昨年度は、いしかわ道徳教育推進事業での実践を生かし、「教師がすぐに板書をするのではなく、生徒の発言を受け止めつつ、他の生徒の反応や意見を求める、問い直すなどして、生徒の発言をつなげようとする」ことに重点を置いた授業研究に力を入れた。

生徒が自ら学習に取り組む授業づくりを目指すには、教科の見方・考え方を生かした単元デザイン、ねらいの明確な授業計画が不可欠である。全職員がこの研究主題を軸としながら、課題設定、活動、まとめ、振り返り(資料2)の中心に「つけたい力」を設定し、ねらいの明確な学習活動の工夫を行っていく。その中で、主体的な学習者を育てることができると考えている。

(資料1) 生徒の発言を「つなぐ・広げる・深める」教師の働きかけの例(全教科共通)

H30~R5の6年間

個人思考・ペア・グループでの話し合い活動・練習・作業中の見取り

つなぐ

- ①意見を机間指導で拾い、発表などを通じて考えが持てない生徒の支援とする。
- ②生徒に発言を促し、それについて他の生徒の意見を聞く。
- ③どこでつまづいているのかを見取り、紹介するなどして、他の生徒から改善に向けての意見を引き出す。

全体で発表・共有し、収束させていく場面

広げる

- ④生徒の発言を、他の生徒に言い換える。
- ⑤考える視点を示して、意見交換したり、全体へ問い返したりする。
- ⑥いくつかの意見について、共通点・相違点に意識させながら、全体で考える。

深める

- ⑦根拠が乏しい意見については、根拠となる資料などがないか、全体に問いかける。
- ⑧なぜそう思うのか問い返したり、意見の矛盾点を挙げて問い直したりする。
- ⑨どの立場に賛成なのか、立場を明らかにして発表させる。

すべての場面を通して

- ⑩発言の良いところを具体的に指摘し合わせたり、教師が指摘したりして価値付ける。

(資料2) 課題に対する「まとめ」と「振り返り」

○課題「今日の授業で何を学ぶか」

○まとめ「今日の授業で何を学んだかを再構築する」…評価は知識・技能／思考・判断・表現 生徒の実態や、授業内容に合わせた段階的な指導

- ・キーワードの穴埋め
- ・書き出しや文末の指定、定型文の活用
- ・参考にするもの(板書、資料など)の提示
- ↓
- ・話し合い活動や、発表から出た意見をキーワードとして活用

○振り返り「今日(または単元)の授業を振り返り、学びを確かめる」…評価は学びに向かう態度

- ・何が分かったか、できるようになったか
- ・授業の前と後で、意見の変容はあるか

(4) 具体的な手だて

① 校内研修会（全教科共通）の実施

（予定）第1回校内研修会（4月）…今年度の研究方針などの見通しの確認

第2回校内研修会（4月）…「演題未定」講師招聘→道徳科の授業スキルを教科指導に生かすポイント確認

- ・目指す生徒の姿・生徒につけたい力の共通理解
- ・学力調査等の分析結果の共有 など

② 教科部会の充実

- ・教科の見方・考え方を意識し、ねらいに即した「課題」「まとめ・振り返り」の工夫
- ・生徒を「つなぐ・広げる・深める」教師の働きかけの取組の継続
- ・計画的に学習する習慣をつけるための家庭学習課題の工夫
- ・ICTを活用した授業展開の工夫

●研究授業

- ①研究授業（6月～7月）5教科および保健体育科、音楽科・技術家庭科・美術科から、それぞれ1名
 - ・研究授業及び整理会に参加
 - ・金沢教育事務所指導主事の要請

②学校訪問（10月11日・16日）

③県音楽教育研究大会（10月18日）

●相互授業参観（年に3回程度実施予定）

<目的>

- ①授業力向上のため…課題設定の妥当性、教師の出る場と待つ場、生徒同士の関わる活動の質、まとめ・振り返りによる生徒の変容を見ることで、各自の授業力向上をはかる。
- ②生徒理解のため…学級や部活動で見る生徒が、どのような授業態度であるか等、職員全体で理解し、また支援していることを生徒に理解させる。

③ 研究企画委員会（参加者：校長、教頭、中川、上野、猪俣、井表、引戸）（週1）の充実

- ・研究企画委員会における検討内容を、各学年の学習担当が学年会で提案する。
- ・各学年の学習担当が、代議員指導担当を兼ねる→生徒が学習意識・家庭学習の取組を考えられるようにうながす。

④ 家庭学習への取り組み

- ・計画的な家庭学習への指導やテスト計画表の改善
- ・一人一台端末を利用した家庭学習課題と学習時間管理、くり返し学習

<学力・学習を支える基盤づくり>

授業規律の徹底	家庭学習の習慣づけ	学習環境の整備
ア 生徒指導部、教科担任と学級担任との連携	ア 学習方法の指導 ・「学習の手引き」全教科	ア 学級学年掲示の工夫 ・一人一人を大切にす指導
イ 「傾聴三原則」の指導	・自学ノートの指導（1・2年）	・コメントの充実
ウ 朝読書（朝学習）…学びの基盤として集中した朝のスタート	イ 家庭学習強化の取組 ・ローディングシート（計画表）の活用	イ 道徳コーナーの充実
エ 授業ルール強化週間	ウ 個への指導 ・補充学習、質問教室など	ウ 教科での工夫 ・教材、教具の工夫 ・個を生かす教科掲示の工夫

(5) 検証方法

- ① 学力・学習状況調査等の結果分析
 自校採点・分析を実施し、研究実践の検証とする。結果分析を指導に生かす。

	3年生	1、2年生	
	全国学力・学習状況調査 県基礎学力調査	町学力調査	県評価問題 I、II
4月	調査実施	調査実施	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">県Ⅰ 調査実施→結果分析</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">県Ⅱ 授業改善、検証→再分析</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">県Ⅱ 授業改善</div>
5月	自校採点→分析・検証		
8月	結果返却→再分析、検証	結果返却→分析・検証	
R6年度版「つきたい力」「授業改善ポイント」の検証			
9月	解説、指導	解説、指導	
10月	「つきたい力」問題の出題	「つきたい力」問題の出題	
11月			
12月			
1月			
2月			

② 意識調査の分析

生徒「授業および家庭学習アンケート」（7月、12月の予定）

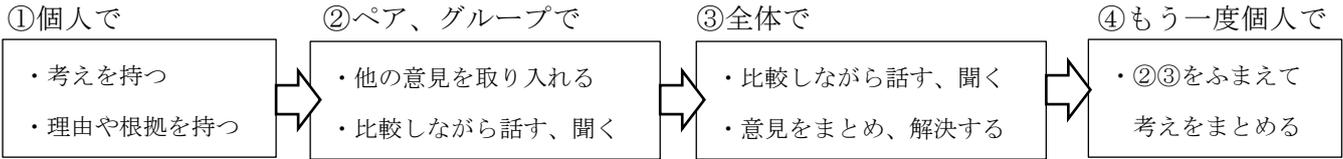
①	授業の中で「今、何に取り組めばいいのか」がわかる。
②	課題について自分で考えている。
③	友達と考えを交流している。
④	授業後半で学んだことを表現している。
⑤	授業の内容はわかりやすい。(町共通)
⑥	授業中に先生にほめられたり、アドバイスされている。
⑦	平日、学校の授業時間以外に、1日当たりだいたいどれくらいの時間、勉強をしますか。
⑧	学校が休みの日、1日当たり、およそどれくらいの時間、勉強をしますか。

教師「教師の意識調査」（7月、12月、2月）→教務部の「学校評価アンケート」内で実施

①	授業の中で「今、何に取り組めばいいのか」を明確に指導している。
②	生徒の意欲を高める「課題」を設定している。
③	生徒の考えを深める働きかけを行っている。
④	授業後半で学んだことや考えたことを表現させている。
⑤	生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業をしている。(町共通)
⑥	授業中に生徒をほめたり、アドバイスしている。

(6) うちなだ学び合いスタイル 2024

【 生徒の学びのステップ 】



導入	<p>前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時のまとめ等を活用し、学びのつながりを意識する。
見通し (個人)	<p>課題提示 (5～10分以内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題は「学習 (解決) 課題」とする。 「つきたい力」が導き出せる課題を工夫する。 必ず「まとめ」と整合させる。
展開	<p>考えや見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人思考で、考えや見通しを持つ時間を確保する。 課題解決までの見通しを持たせる。 <p>話し合う・交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体、グループ、ペア等、内容に合った学習形態を工夫する。 「何を話し合うか」「何のために話し合うか」「話し合いのゴール」を明確にする。
深める (ペア・グループ)	<p>深める・表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、意見や考え、根拠となる資料などが整理された「構造的な板書」を意識する。 発表の形態を工夫する。役割を固定せず、すべての生徒に「表現する」機会を設定する。 生徒どうしが考えを「つなぐ、広げる」働きかけを意識する。 視点を変えて考えることができる「深める発問」を設定する。 机間指導で生徒のワークシートなどを確認して考えをとらえ、意図的に指名する。 技能教科の学び合い…モデルとなる作品や技から、良い点を見付ける、真似するなどが効果的。
まとめ	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対する「答え」となるまとめを確認し、自分の言葉で書く時間を確保する まとめを共有したり、適用問題に取り組んだりする時間があるとなおよい。
学びをつなぐ (個人)	<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだことや、自己の考えの変化をとらえ直し、授業を振り返る。毎時間でなくてもよい。

○単元デザイン (構想)

一斉授業 (序)

- 単元で身につけさせたい資質・能力の確認
- 本単元で意識させたい「見方・考え方」とその働かせ方を確認

個別学習

- 単元のどの時間に組み込むのか
- 自己決定と試行錯誤
- 「自己調整力」の育成を図る
- 「個別最適な学び」で多様な意見を引き出す
- 一人1台端末の効果的な活用

一斉授業 (結)

- 「協働的な学び」で多様な意見に触れる
- 新たな学びや変容を自覚する
- 教科の資質・能力の定着 (C→Bの手立て、B→Aの手立て)